

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

↓ 開花した仁叟寺蓮はず



だいせいじきえ こかげさんごきとうえ

大施食會及び蚕影山御祈禱會法要

去る四月二十九日のみどりの日に、当寺恒例の大施食會及び蚕影山御祈禱會法要が無事修行圓成いたしました。

特に、福島県原町市から随喜すいきにたまわっ来て頂き、法話を賜った新祥寺副住職の野田精頭師にはお世話になりました。在家の出身であり、出家するに至った本人の軌跡きせきを分かり易く説いて頂きました。野田師は住職の修行時代の友人で同じ釜の飯を頂いた仲であります。師の御活躍を心よりご祈念申し上げます。

また、妻の玲子の実家、神奈川県藤沢市よりご両親様がお手伝いに来て下さいました。他にも前述した野田師の寺族野田温子女史は



↑ 福島県新祥寺副住職しんしょうじ

野田精頭師によるご法話

じめ御本寺仁叟寺寺族渡辺恵津子女史、岡田とし女史、岡田誠氏といった方々に多大なる御尽力を賜りました。こういった行事を行うにあたり多くの人々のご縁があるということを改めてありがたく思っております。

役員交代のお知らせ

矢田地区の役員、木村照夫きむらてるお氏の後任として木村重太郎きむらじゅうたろう氏が新たに役員となりました。更なる寺門興隆じもんこうりゅうや檀信徒間の親睦交流しんぼくこうりゅうにご尽力のほどお願い申し上げます。



↑ 総会で挨拶を行う 宇佐美源吾総代長

平成16年 龍源寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
- 1/3~1/4 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 涅槃会
- ※3/14 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春彼岸会
- ※4/8 花祭り
- 4/29 大施食会蚕影山例祭法要
- 7/12~7/16 県外檀信徒棚経
- ※7/23~7/24 子ども禅の集い
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋彼岸会
- ※12/8 成道会
- ※12/31 除夜祭
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は本寺仁叟寺にて開催

そうわかい

總和会事務役員に就任

曹洞宗の団体に總和会という組織がありま
す。大本山總持寺を中心とした団体で、群馬県
支部は会長の自坊である高崎市の向雲寺にあり
ます。

先日は、八年振りに群馬県が主宰となり、山
梨県を含めた関東管区一都七県の總會が開催さ
れました。講師に日本画家千住博氏、落語家
三遊亭好楽師匠をお迎えし、意義深い活動がで



← 龍源寺沿革碑

今回の龍源寺探索では、本堂脇に建立
されている『龍源寺沿革碑』を紹介いた
します。

この沿革碑は昭和51年（1976）、大頭

きたかと思います。

現在、吉井町仏教会はじめ、上信電鉄社寺
協議会、群馬県曹洞宗青年会、大本山總持寺
同安居会即眞会など多くの寺院関係の組織に
所属しておりますが、それらの活動がこれか
らの経験及び教化に繋がるはずだと思ってい
ます。



← 日本画家千住博氏の講演
總和会関東大会での

龍源寺探索-7-

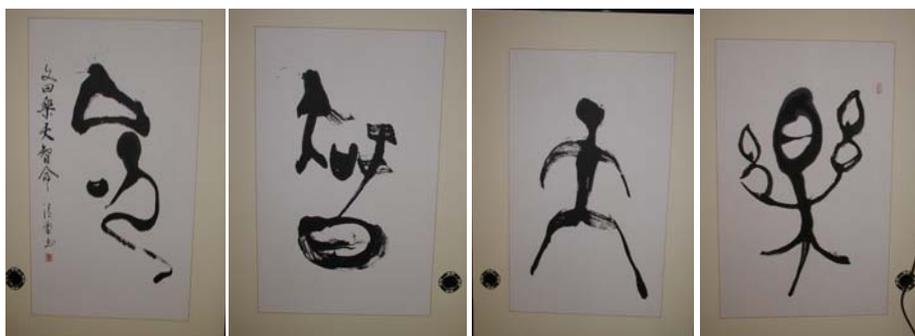
啓司住職代に晋山結制式の際、建てられました。
撰文も大頭啓司大和尚によるものです。江戸初期
から綿々と繋がる約三百六十年以上の龍源寺の歴
史が刻まれております。

紙面の都合上、全文は紹介できませんが、当寺
の歴史を簡潔にまとめてあります。お寺の歴史と
してだけでなく、ご先祖さまやその地域、そして
その縁に繋がる歴史を、ご来寺した際にご覧にな
り、考えて頂きたいと思ひます。

くり ふすま

やまうちきよか

庫裏の襖に書家山内清香女史の作品を採用



しょうけいもじ らくてんちみょう

↑ 右から、象形文字で『樂天智命』とあります

先月号でも紹介した向雲寺
寺族で住職の叔母にあたる書
家、山内清香女史に当寺庫裏
の襖への作品を依頼しまし
た。楽しくまた多くの人々が
集まるようにと『樂天智命』
という書を象形文字で書いて
下さいました。当寺の庫裏が
映えるこの作品ですが、見学
希望の方は是非御連絡くだ
さい。

仁叟寺通信-9-

仁叟寺本堂床下改修工事が六月初旬に行われ
ました。仁叟寺の本堂は室町時代の^{たいえい}大永二
年（1522）に創建されて以来、火災や戦災に
遭うことなく現在に至っております。写真で
も分かると思いますが、その床下の^{しんぼう}心棒は
丸太一本の木がそのまま使われております。

今回はその床下の補強修繕工事が行われま
したことを報告いたします。特に心棒への負
担を^{けいげん}軽減させ、本堂の^{しんさい}震災などへの^{たいきゅうせい}耐久性
が大幅に増しました。

じゃぐち

水道蛇口改良工事報告

墓参に来られた方はもう御承知のことと思
われますが、当寺の水道の蛇口二箇所が改良
されました。

工事は当寺檀信徒の^{よしいじゅうせつ}吉井住設株式会社に依
頼。今までの水道はきつく締めても水滴が垂
れて来る状態でしたが、これで恒常的であっ
た^{みずも}水漏れが解消されました。

蚕影山下地区整備終了報告



↑ 整備された蚕影山下地域



← 改修工事風景

また、今回の工事中に江戸初期の長刀（^{なぎなた}駿河国
^{ふじわらもりなが}藤原盛命作）が発見されるというありがたい「お
まけ」もありました。この長刀は向井家文書の「
^{しんびろく}真秘録」の中の記述に出ている江戸末期の吉井
^{うちこわ}打毀し騒動で使用されたモノだと考えられます。
「真秘録」の記述の裏付けだけでなく、仁叟寺及
び地域の歴史を考える上でも大きな発見となるこ
とは間違えないかと思われます。

当寺は改修改
良など工事が必
要な部分が、ま
だ多く存在いた
します。少しづ
つでもいいの
で、お寺がよく
なっていく方向で精進
していきたく考えてお
ります。

→ 改良された
水道蛇口



先月号はじめ四月二十九日の檀信徒総会でも二年に亘
り取り上げた懸案事項の蚕影山下地域の整備工事が終了
いたしました。工事は総代世話役員会議の了承を受け、
当時檀家役員でもあった矢田の^{さんぎょうはいきぶつ}木村照夫氏に依頼。
^{じこう}産業廃棄物だったU字溝も全て完全に^{てつきよ}撤去することができ
ました。

将来的には龍源寺公園墓地の^{ぶんじょうかくだい}分譲拡大の後、改めて記
念碑の建立している蚕影山跡地までの整備を行いたく思
います。

また、当寺総代世話役員が、総出で夏と冬の年二回行
う清掃作業「おてんま」もこの工事で行い易くなるかと思われ
ます。この場をお借りして、ご報告申し上げます。

とくべつきこう ばいかこうこういん いのうえ

【特別寄稿】 梅花講講員 井上あやめ



ばいかりゅうごえいか

平成十三年の寺報『山雲水月』に梅花流御詠歌の講員募集の記事を読ませて頂きました。その頃、私の姉は重い病に冒されておりましたので、不安と苦痛の毎日でした。そんな中、何かにおすがりしたい、救って頂きたいと祈る心にて梅花講に入講させて頂きました。

仁叟寺住職夫人でいらっしゃる、講師の恵津子先生には笑顔を絶やさず何よりも和を大切に優しく御指導して頂き、自然に和やかな気分になって参ります。姉の見舞いにも穏やかに接してやれる様になれました。姉はその年の夏、静かに西方浄土へと旅立って行きました。四十九日の法要には、恵津子先生に特別に特訓をして頂き、

追弔御和讃を、三回忌にあたる今年は追善供養御和讃を、それ

↑ 梅花講奉詠風景-1- 釈迦御生誕会（花祭り）

それぞれ唱えさせて頂きました。

御詠歌は悲しみを癒す為だけではなく、慶祝御和讃、結婚讃歌、報謝御和讃など人の世の慶

びを、格調高く感謝の心を込めて詠われている

のも多くあります。奉詠といたしましては、平

成十四年度は年中行事の他に、龍源寺晋山結制式、第四十五回群馬県梅花流大会（於、草津温泉）が行われました。また、平成十五年度には、伊香保温泉での研修会はじめ副住職の佛前結婚式、第四十六回群馬県梅花流大会（於、桐生市）などが行われました。今年度には来月五日に初めての試験が高崎市の大雲寺様で行われる予定となっております。

これからも、恵津子先生はじめ講員の皆様と共に梅花流御詠歌を唱えさせて頂こうと思っております。



↑ 梅花講奉詠風景-2- 龍源寺大施食會兼蚕影山御祈禱會

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

梅雨真っ只中ということで、蒸し暑い日が続いております。龍源寺の廻りの田んぼも田植えが終わり、これから夏を迎えるそんな今日この頃であります。

さて、龍源寺報『山雲水月』も今号で十号となりました。今回は梅花講の井上あやめ女史に寄稿をして頂きました。どうもありがとうございました。他にも、文章を募集しております。是非、当寺もしくは住職まで御一報下さい。

また、今年で二十三回目を迎える子ども坐禅会の参加者も募集しております。併せて宜しくお願い申し上げます。



↑ 境内に迷い込んだカブト虫